

山口赤十字病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

I 総合病院 山口赤十字病院の基本情報

医療機関名	総合病院 山口赤十字病院
開設主体	日本赤十字社
所在地	山口県山口市八幡馬場53番地1

許可病床数 (H29.7.1現在)	475床	
(病床の種別)	一般	475床
	療養	床
	結核	床
	精神	床
	感染症	床
(病床機能別)	高度急性期	155床
	急性期	320床(休床48床含む)
	回復期	床
	慢性期	床

稼働病床数 (H29.7.1現在)	427床	
(病床の種別)	一般	427床
	療養	床
	結核	床
	精神	床
	感染症	床
(病床機能別)	高度急性期	155床
	急性期	272床
	回復期	床
	慢性期	床

診療科目(標榜診療科) (H29.4.1現在)	内科 消化器科 循環器内科 神経内科 精神科 小児科 外科 乳腺外科 整形外科 脳神経外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 気管食道科 放射線科 歯科口腔外科 麻酔科 リハビリテーション科 緩和ケア科
----------------------------	---

平成 28 年度 職員数 (H29.4.1 現在)					
	職員数	医師	看護職員	専門職	事務職員
常勤職員数	775	69	431	120	155
常勤換算数	814.4	69.9	442.5	120	182

認定・指定等
D P C 医療機関群・Ⅲ群 救急告示病院 第二次救急医療施設（輪番） 小児救急医療拠点病院 地域周産期母子医療センター 地域医療支援病院 臨床研修指定病院（管理型） 災害拠点病院 山口県 D M A T 指定病院 山口地域夜間こども急病センター 山口市在宅緩和ケア支援センター（山口市委託）

II 構想区域の現状と課題

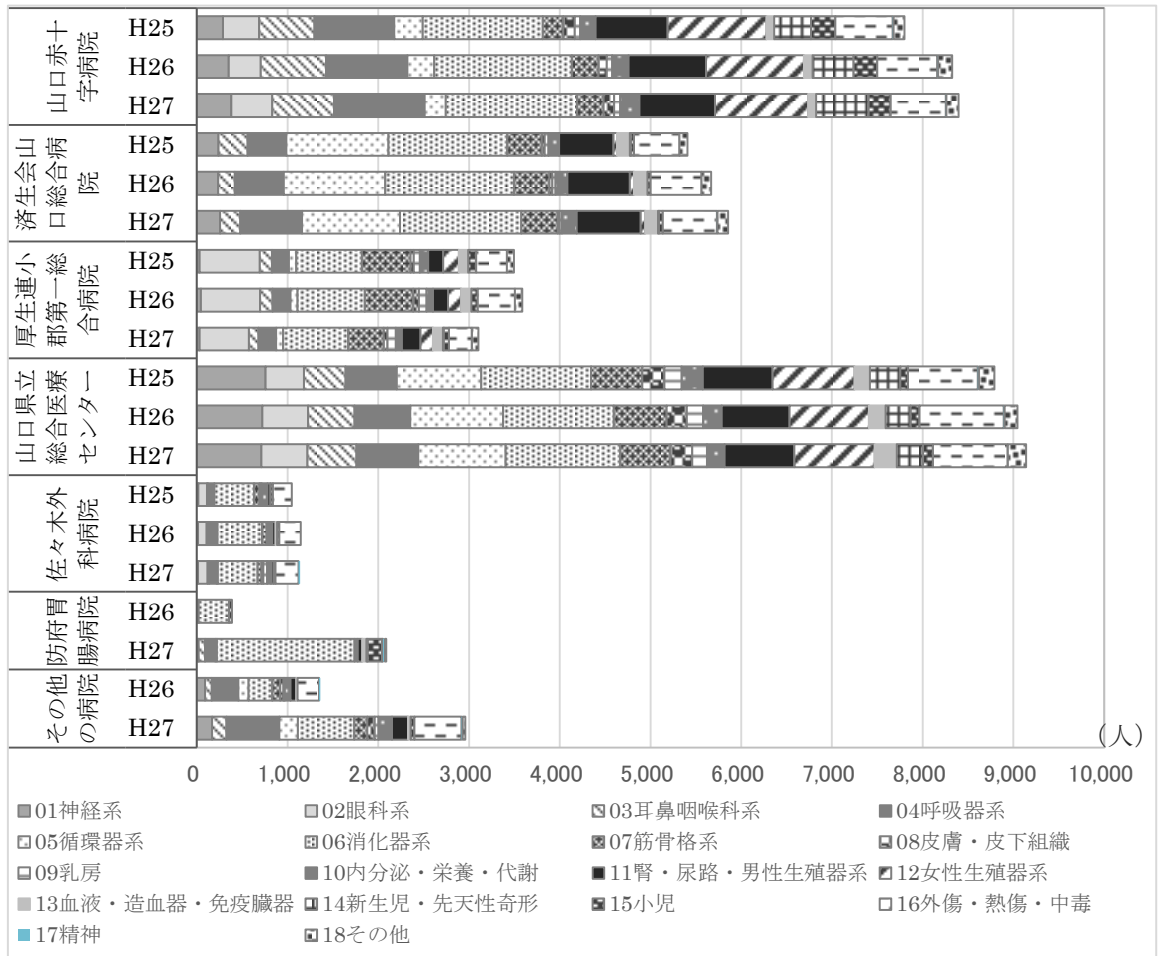
1 構想区域の現状

○構成市町村と主な医療機関

本圏域は、山口市、防府市の2市で構成されており、地理的には、各地域に市街地が形成されています。

山口市・防府市のそれぞれに中核病院があり、急性期医療の患者は、山口市内では山口赤十字病院と済生会山口総合病院、防府市内では山口県立総合医療センターに集中しています。

圏域内患者数（厚生労働省：DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告）

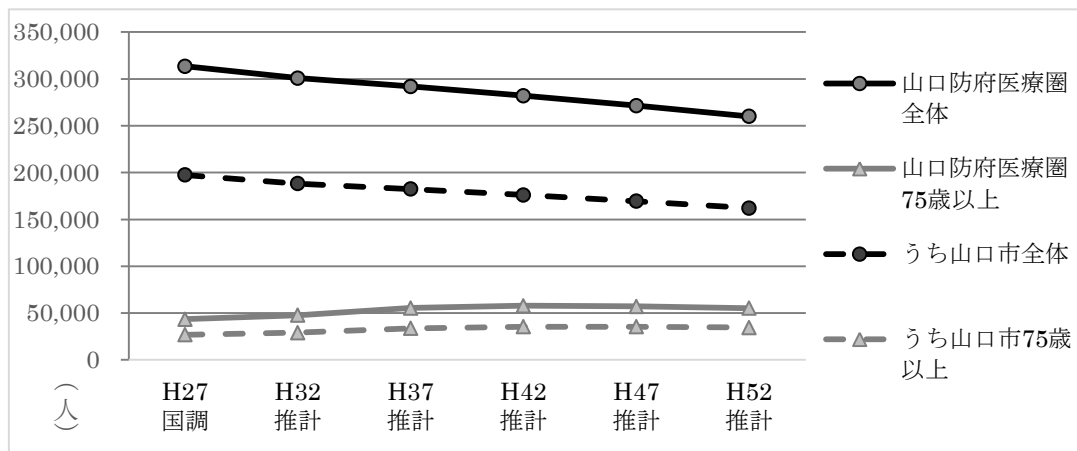


○人口

医療圏内及び山口市内の人口は、平成 27 年でそれぞれ、313 千人、197 千人だったが、平成 37 年には 292 千人（平成 25 年比-7%）、182 千人（同-7.6%）、平成 52 年には 256 千人（同-17%）、162 千人（-18%）に減少すると予測されています。

一方、75 歳以上人口は、平成 27 年で 43 千人、27 千人が、平成 37 年には 56 千人（同+28%）、34 千人（+25%）に増加後、平成 52 年には 55 千人（同+27%）、35 千人（+28%）と横ばいになると予測されています。

山口・防府保健医療圏の人口推移



推計人口出典: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月)」

高齢者の増加に伴い、5疾病別の入院患者は増加する見込みであり、中でも脳血管疾患の入院患者は大幅に増加する見込みです。

圏域内患者数推計(5疾病別)

(単位: 千人)

	2014年		2025年		増減数		増減率	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来
悪性新生物	328.2	428.0	348.3	441.6	20.1	13.6	6%	3%
虚血性心疾患	39.5	153.0	44.7	171.5	5.2	18.5	13%	12%
脳血管疾患	424.6	242.9	521.7	275.4	97.1	32.5	23%	13%
糖尿病	54.6	555.7	62.6	571.1	8.0	15.4	15%	3%
精神及び問題行動	658.7	621.7	668.8	591.6	10.1	-30.1	2%	-5%

※推計患者数は、患者調査(2014年)に基づき、5疾病の入院・外来の年齢構成別受療率に当該医療圏の年齢構成別人口(2014年・2025年)を乗じて算出。出所: 国勢調査(平成22年、総務省)、患者調査(平成26年、厚生労働省)、日本の地域別将来推計人口(平成25年、国立社会保障・人口問題研究所)

○病床及び患者数の状況

本圏域には、27の病院と255の一般診療所、141の歯科診療所、149の薬局があります。

平成28年(2016年)病床機能報告結果によると、回復期病床が極端に少ない状況にあり、病床機能の転換が必要となります。

平成37年(2025年)における医療需要及び必要病床数等及び平成28年度病床機能報告結果

	1日あたり医療需要 (2025年時点)	必要病床数 (2025年時点)	病床機能報告結果 (平成28年度)
高度急性期	216人	275床	551床
急性期	760人	974床	1,357床
回復期	809人	899床	409床
慢性期	791人	860床	1,244床
休床等	-	-	48床
計	2,576人	3,008床	3,609床
在宅医療	4,461人	-	-

2 構想区域の課題

○高度急性期・急性期機能

- ・医療機関が担う医療機能の集約化、医療機関間の役割分担・相互連携による医療提供体制の整備
- ・脳血管疾患などの疾病については、三次救急医療機関が配置されていない菟医療圏を補完する体制の整備
- ・休日・夜間の小児医療に対応するため、小児医療体制の充実強化

○回復期機能

- ・今後、増加が見込まれる脳血管疾患や大腿骨骨折患者等の在宅復帰が円滑に行われるよう、菟及び長門保健医療圏からの患者が流入している現状を踏まえ、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟等の整備が必要

○慢性期機能・在宅医療等

- ・医科医療機関、歯科医療機関、薬局、訪問看護ステーションや介護施設等、多職種連携による地域包括ケアシステムの構築が必要

○医療連携等

- ・住民に救急医療の適正受診や病床の機能分化・連携について理解してもらうため、初期・二次・三次救急医療の役割分担、高度急性期・急性期・回復期・慢性期の各病床機能についての、住民への啓発が必要
- ・急性期からの口腔衛生の確保が回復期、慢性期への移行を早めることから、医科医療機関と歯科医師会との連携が必要

Ⅲ 総合病院 山口赤十字病院の現状と課題

1 自施設の現状

○基本理念

基本理念
わたしたちは、地域の皆様に、あたたかな信頼のおける医療を提供します。
基本方針
1 赤十字の心をもって、良質で温もりのある医療を提供します。 2 医療に関わるあらゆる安全管理に、最大の努力をします。 3 災害時には、地域の皆様の医療救護活動に努めます。 4 一人ひとりが生き活きと、働きがいのある病院を目指します。

○届出入院基本料・特定入院料等

一般病棟 7 対 1 入院基本料 ハイケアユニット入院医療管理料 1

小児入院医療管理料 4 緩和ケア病棟入院料 短期滞在手術等基本料 3

○患者数等

新規入院患者は、年々増加傾向にありますが、平均在院日数が新規入院患者数の増の割合を超えて短縮しているため、延患者数は減少傾向にあります。

		H26	H27	H28
入院	延患者数	140,687 人	132,868 人	128,556 人
	一日平均	385.4 人	363.0 人	352.2 人
	新規入院患者数	9,727 人	9,945 人	10,302 人
	平均在院日数	13.3 日	12.3 日	11.4 日
外来	延患者数	180,469 人	172,813 人	173,743 人
	一日平均	742.7 人	714.1 人	715.0 人
紹介率		53.2%	60.2%	60.8%
手術件数		7,371 件	7,425 件	6,958 件

○当院の職員数

(H29.6.1 現在)

医師	75 名	医師 72 名（うち臨床研修医 7 人）、歯科医師 3 名
看護職員	453 名	看護師 418 名、助産師 34 名、准看護師 1 名
医療技術職員	114 名	薬剤師 24 名、臨床検査技師 26 名、放射線技師 16 名、管理栄養士 7 名、理学療法士 14 名、作業療法士 7 名、言語聴覚士 4 名、歯科衛生士 3 名、視能訓練士 4 名、臨床工学技士 8 名、臨床心理士 1 名
事務職員	109 名	
その他職員	79 名	看護助手 35 名、調理員等 21 名、その他 23 名
計	830 名	

○当院の特徴

・総合病院としての役割

山口・防府医療圏、とりわけ山口市域において、多くの診療科を抱える総合病院として、また、救急車搬送の最多受け入れ先として、急性期医療の中核を担っています。

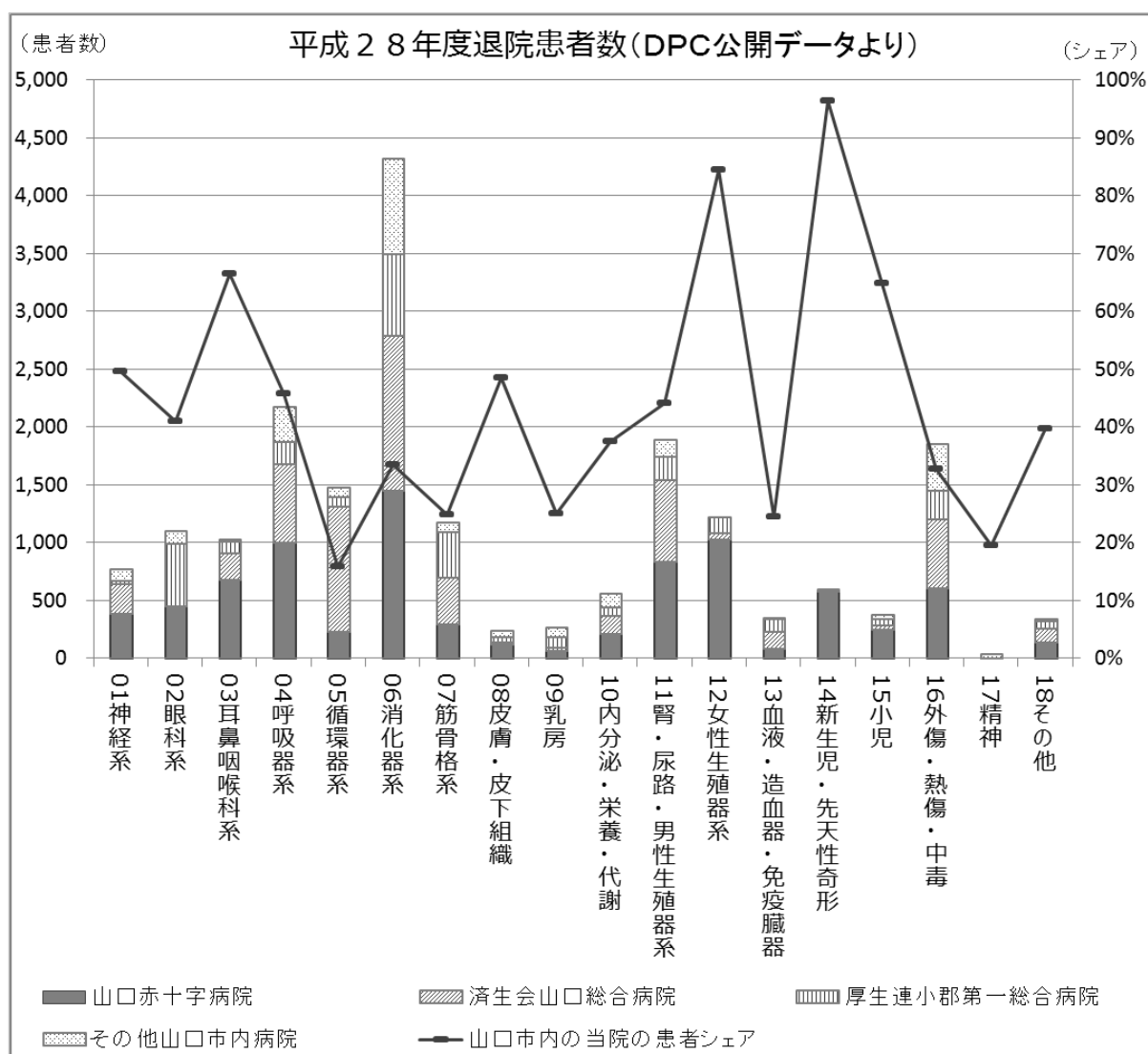
救急車の受入件数(山口市内の病院)

(件)

山口赤十字	済生会山口	小郡第一	柴田	佐々木外科	阿知須共立	阿知須同仁	林
2,654	2,336	615	35	372	239	106	271

出典:平成28年度病床機能報告結果より

厚生労働省のDPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告によれば、当院は、山口市域において、「03耳鼻咽喉科系」「12女性生殖器系」「14新生児・先天性奇形」「15小児」の分野で圧倒的な患者数シェアとなっています。その他、「01神経系」「04呼吸器系」「10内分泌・栄養・代謝」「11腎・尿路・男性生殖器系」「16外傷・熱傷・中毒」の患者数も市内では最多となっています。一部「05循環器系」などは患者数が少ないものの、山口市域では、多くの診療科を抱える市内最大の急性期病院として、様々な疾患に対して総合的に対応しています。



・政策医療（5疾病、5事業）への対応

政策医療については、第6次山口県保健医療計画において、次のとおり位置づけられており、一部（急性心筋梗塞、精神医療等）を除いて、山口市内で専門医療等の中心的な役割を担っています。特に、周産期医療や小児医療、緩和ケアなどでは唯一の専門医療機能を有しています。

また、赤十字社の特徴である災害医療に関しては、全国の赤十字病院とのネットワークを有するなど強みを有しており、日本赤十字社山口県支部との協力体制の下、積極的に対応しています。

5疾病

<がん>

胃・大腸がん				肺がん				肝臓がん				乳がん				子宮がん			
(予防検診)	初期診察	標準的診察	専門診察	療養支援	(予防検診)	初期診察	標準的診察	専門診察	療養支援	(予防検診)	初期診察	標準的診察	専門診察	療養支援	(検診)	初期診察	標準的診察	専門診察	療養支援
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

<脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病>

脳卒中				急性心筋梗塞				糖尿病				
(初期診察)	急性期	回復期	維持期	(初期診察)	急性期	回復期	再発予防	初期・安定期治療	専門治療	妊娠時の治療	集中的総合的治療(網膜症)	慢性合併症の治療(腎不全)
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

<精神医療>

統合失調症				うつ病				認知症				アルコール依存症				児童・思春期の精神疾患			
予防・社会復帰	治療	精神科救急	身体合併症	専門医療	予防	初期診察	専門医療	回復	社会復帰	専門医療	地域生活支援	精神科救急	入院医療	身体合併症	【予防】	回復	社会復帰	回復	社会復帰
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

5事業及び在宅医療

救急医療							災害医療		周産期医療				小児医療			在宅医療					
救命医療	入院救急医療	特に緊急性の高い疾患に対応可能な病院					初期救急医療	救命期後医療	災害拠点病院	災害急性期の応援派遣	へき地診療の支援医療	正常分娩	母子医療センター	地域周産期母子医療センター	総合周産期療養・療育支援	地域小児科センター	小児救急センター	高度小児専門医療	在宅医療の導入	日常の療養支援	状態変化時の対応
		脳卒中	急性心筋梗塞	重症外傷	急性中毒																
		○	高度	○	○	○															

2 自施設の課題

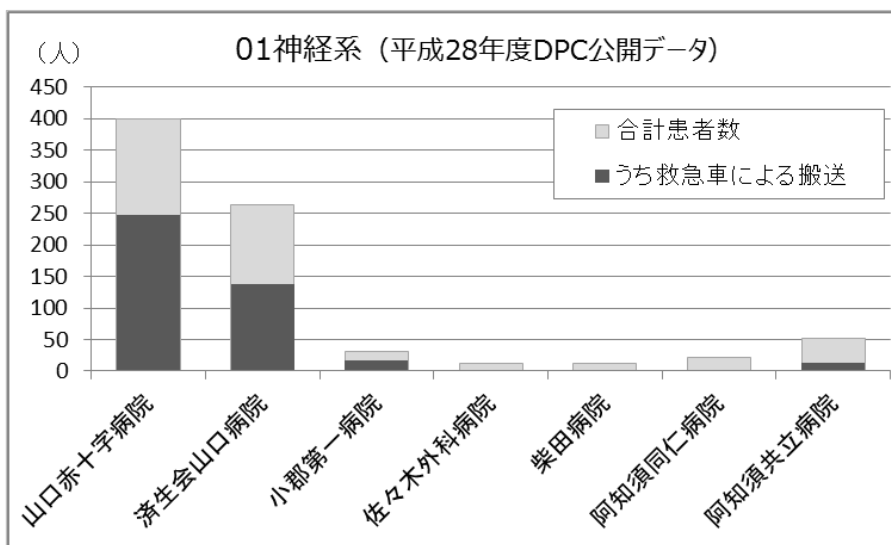
○地域の中核医療機関としての機能維持

今後、医療圏の人口動態や地域医療構想を踏まえた上で、地域の中核医療機関として、5疾病5事業に加えて、周辺医療機関では担えない医療機能も維持・強化を図ります。

また、昭和55年竣工の南病棟は耐震基準を満たしておらず、災害発生時に災害拠点病院としての役割を果たすことができない虞があるため、早急な建替えを行う必要があります。

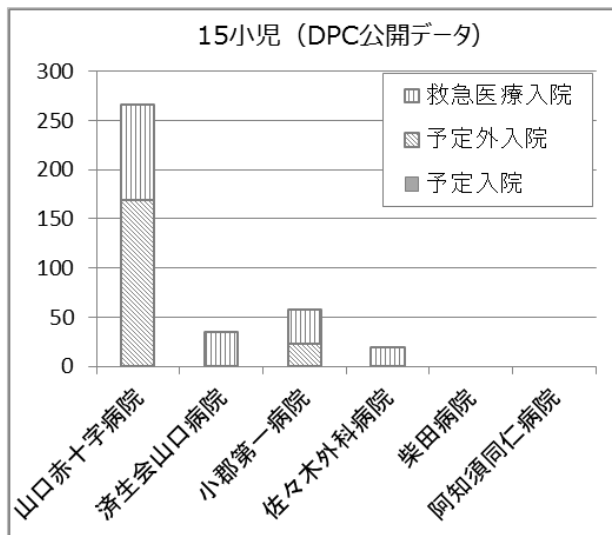
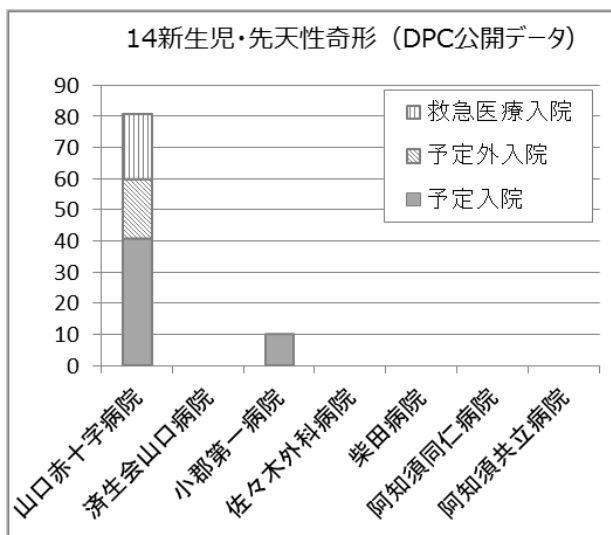
○脳血管疾患患者への対応

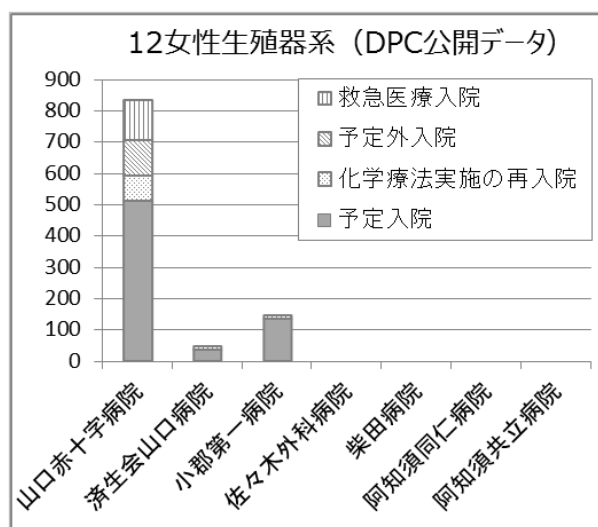
高齢化に伴い、当圏域だけでなく、隣接の菟圏域や隣県の鹿足郡等において医療需要が高まると予測されている脳疾患患者への対応を強化する必要があります。



○周産期医療、小児医療（救急含む）

周産期医療や救急を含む小児医療の分野で、特に山口市域において、唯一の専門医療機関として、女性医療の充実も含め、その体制を維持・強化していく必要があります。





○がん診療

当院は、健診センター等による初期診療から、専門診療（手術、放射線治療、化学療法等）、さらには緩和ケアまでトータルにがん診療に対応していますが、今後、高齢者などの患者の増が見込まれる中で、より安全な手術の実施や緩和ケアの充実など診療体制を維持・強化していく必要があります。

がんへの対応状況【「平成28年6月診療分」で「平成28年7月審査分」】

	各病棟合計
悪性腫瘍手術	27件
病理組織標本作製	91件
術中迅速病理組織標本作製	3件
放射線治療	5件
化学療法	82件
がん患者指導管理料1及び2	10件
抗悪性腫瘍剤局所持続注入	20件
緩和ケア病棟入院料	30件

○手術体制

高齢化を踏まえ、身体にやさしい温もりのある医療を提供するため、当院の特長の一つである「内視鏡外科手術」を一層進めていくため、「内視鏡外科手術センター」の機能の充実を図っていく必要があります。

診療科別内視鏡外科手術件数（件）

診療科目	平成26年	平成27年	平成28年
外科	209	231	246
整形外科	113	135	137
脳神経外科	2	3	3
泌尿器科	22	26	29
産婦人科	98	104	100
眼科	23	25	18
耳鼻咽喉科	79	71	69
合計	546	595	602

○心疾患、糖尿病、精神医療

- ・ 心疾患については、循環器疾患全般について診療していますが、急性心筋梗塞等重症患者は、済生会山口病院と連携して対応しており、今後とも連携を強化していく必要があります。
- ・ 糖尿病については、医師をはじめ、管理栄養士、薬剤師、看護師、理学療法士など多職種で糖尿病チーム医療委員会を構成し、教育入院など取り組んでいるところであり、患者の在宅生活の支援も含めチーム医療で推進していく必要があります。また、様々な診療科を有する当院としては、合併症や妊娠時等の特別な治療にも対応していくことが求められています。
- ・ 精神科医療については、統合失調症などの専門的な医療は、他の精神科専門病院に依頼することとしていますが、高齢者の増に伴い入院患者などに増えている精神症状への対応について、精神科リエゾンチームや認知症ケアチームを設置し、多職種で連携しながら治療環境を整えていくことが重要となっています。

○高齢化社会に対応した医療機能充実（一部回復期機能への対応）

脳血管疾患や大腿骨骨折患者等にとって、今後、少子高齢化が進む中で、円滑な在宅復帰が進むよう、回復期機能の補填が必要となっています。

また、障害や病気をもっている方々の在宅生活を支援するため、訪問看護ステーションを充実していく必要があります。特に、当院の強みである緩和ケアや小児医療などの分野については、一層の充実が求められています。

IV. 今後の方針

1 地域において今後担うべき役割

○地域の中核医療機関としての役割

山口市域における公的な基幹病院として、また、地域医療支援病院として、高度急性期、急性期医療を持続的、安定的に提供する役割を担っていきます。

中でも、小児救急を含む救急医療については、引き続き、山口市内の病院の中で中心的な役割を維持します。

○脳血管疾患患者への対応

今後、当圏域だけでなく萩圏域や隣県の鹿足郡等においても医療需要が高まると予測されている脳疾患関係の医療については、当院が医師数をはじめ、優れた医療資源を有していることから、HCUの増床によるハード面を含めた医療提供体制を整備します。

※山口市内で、常勤の神経内科医及び脳神経外科医を複数名配置しているのは当院のみ

○周産期医療及び女性医療

当院には、産婦人科の専門医や乳腺外科の専門医など体制が充実していることから、周産期医療に限らず、女性のライフステージに応じたトータルケアや、患者アメニティの充実により、安全・安心な女性医療提供体制を整備していきます。

○がん診療

がん診療については、圏域内唯一の緩和ケア病棟を有しており、また、専門的治療にも積極的に取り組んでいることから、この取組みを継続するとともに、特に、内視鏡外科手術等の高度な手術、処置を実施する体制を充実し、地域のがん診療の拠点としての役割を担っていきます。

○高齢化社会に対応した医療機能充実

高齢者等の在宅復帰が円滑に行われるよう、退院前後訪問や訪問看護などの在宅医療の支援も担っていきます。

2 今後持つべき病床機能

高齢者が増え、円滑な在宅復帰等の支援の重要性が増す中、当圏域で不足している回復期機能を補填するため、院内に地域包括ケア病床を整備していきます。

3 その他見直すべき点

医療圏の人口減少、高齢化の進展、さらには、急性期病院の在院日数の短縮を見据えて、病床数を適正化します。その際、山口市域の救急医療における当院の役割を踏まえ、一定程度の規模を維持する必要があります。

V 具体的な計画

1 4機能ごとの病床のあり方について

人口動態や病棟建替による病棟再編成を踏まえ、高度急性期は、HCU（8床）、NICU（9床）及び脳疾患患者を中心に対応する病棟1棟（48床）、高度な周術後の患者を中心に対応する病棟1棟（54床）とします。回復期については、今後、地域包括ケア病棟1棟（44床）の開設を予定しており、慢性期については、現在、設置している緩和ケア病棟1棟（25床）を予定しています。急性期は、上記以外の病棟4棟（189床）とします。

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	155	→	119
急性期	272		189
回復期	0		44 (地域包括ケア)
慢性期	0		25 (緩和ケア)
(合計)	427 (他、休床48)		377

<具体的な方針及び整備計画>

現行の南病棟等の建替えに併せて、病棟機能を再編し、病床数の適正化を図ります。

- ・南病棟の4病棟のうち、休棟中の病棟を廃止、残り3病棟を新病棟では2病棟に削減
- ・4床あったHCU病床を脳血管疾患対応のため8床に増床
- ・現在の東4階病棟を急性期病棟から回復期に変更
- ・南病棟1階にあった外来・救急・検査等の診療機能を、新病棟の1～2階へ再編

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○合意形成に向けた協議 ○新病棟建設計画（基本設計）検討	○自施設の今後の病床あり方決定（本プラン策定）	
2018年度	○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討 ○具体的な病床整備計画を策定 ○施工業者選定・発注	○地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方の合意を得る。 ○新病棟建設実施設計策定	
2019～2020年度		○新病棟建設着工 ○2020年度末か2021年度前半に新病棟一部稼働（病棟再編）	

2021～2023 年度		○2022 年度中に病棟建設完了	第8期 介護保険 事業計画
-----------------	--	------------------	---------------------

2 診療科の見直しについて

※変更なし

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025 年度)
維持		→	
新設	—	→	
廃止		→	—
変更・統合		→	

3 その他の数値目標について

項目名	数値目標
病床稼働率	93% (377 床ベース)
手術稼働率 ※	123%
紹介率	60%
逆紹介率	90%
人件費率	52%
医業収益に占める人事育成にかかる費用の割合	0.4%

※
年間手術件数 ÷ (手術室数⑧ × 365 日) × 100

VI その他

(自由記載)

当院は、一部病棟で耐震性が不足しています。災害拠点病院として、地域における救急医療の中核を担う病院として、万が一に備えて、早急な建替えが最大の課題となっています。